

母親の育児ストレスと母子関係

—縦断研究による検討—

聖心女子大学大学院

長谷川 麻衣

A Longitudinal Study of Parenting Stresses and Mother-Child Relationships

University of the Sacred Heart

HASEGAWA, Mai

要 約

本研究は、幼児を持つ母親の育児ストレスと母子関係について縦断研究により明らかにすることを目的とした。具体的には、研究1では4歳から5歳の幼児とその母親42組を対象とし、母親の育児ストレスが母子相互交渉場面での母親の養育行動とどのように関連があるのかについて明らかにした。その結果、育児ストレスが高い母親は子どもからの問いかけなどに対して応答性が低いということが明らかになった。さらに、研究2では小学校に就学した研究1の調査協力者42組のうち27組を対象とし、研究1での母親の育児ストレスが、その後、子どもにとっての母親の重要度とどのように関連があるのかについて明らかにした。その結果、研究1で育児ストレスが高かった母親の子どもは、育児ストレスが低かった母親の子どもと同様に自分にとって大事な存在の一人として母親を選ぶものの、その重要度が低い傾向があることが明らかになった。

【キー・ワード】 育児ストレス, 幼児, 母子関係, 縦断研究

Abstract

This study examined the relation between parenting stresses and the mother-child relationships of kindergarten-age children and their mothers in a longitudinal study. The participants in Study 1 were 42 mothers and their children aged between 4 and 5 years old. First, the parenting stresses of the mother were assessed. Then, the interactions of each mother-child pair were observed in task-oriented situations in the laboratory. The results indicated that mothers with greater parenting stresses behaved more inappropriately toward their children than did mothers with low parenting stresses. Based on these results, Study 2 examined the relation of parenting stresses and the mothers' priority levels for their children. The participants in Study 2 were 27 mothers from the original group and their children, now aged 6 and 7 years old. The results indicated that children whose mothers' parenting stresses were

greater in Study 1 chose their mothers as an important person as did the children whose mothers' parenting stresses were low in Study 2. But children whose mothers' parenting stresses were greater in Study 1 did not prioritize their mothers as highly as children whose mothers with low parenting stresses.

【Key words】 Parenting Stresses, Young Child, Mother Child Relationship, A Longitudinal Study

問題と目的

昨今、我が子への虐待が深刻な問題となっている。これまで児童相談所に寄せられた虐待に関する相談件数の推移を見ると、「児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）」が交付、施行される前年度の1999年度に11,632件だった相談件数は施行後の2001年度に20,000件を越えている。また、法律の内容が一部改正された2004年度には30,000件を突破、最新のデータである2006年度では37,343件に至っている。このように、虐待への対策が図られると同時に虐待に関する相談件数は増加の一途をたどっている。さらに、虐待に関する調査の初期から現在まで、一貫して実母による虐待が全体の約60%を占めていることが注目され、育児期の母親が抱える問題の深刻さが浮き彫りになっている。

それでは、虐待に至らないまでもそのようなリスクがある母親というのはどれほど存在するのだろうか。虐待の相談件数の現状から考えるとその数は相当数いると考えられ、虐待を行っている母親だけでなくはそのような母親たちへの育児支援も早急な課題であるといえる。このような母親たちへの着目は虐待やそのリスクがある母子の早期発見の助けとなり、母親の精神的健康や子どもの発達、安定した母子関係の形成を考える上で重要な視点であると考えられる。

これらのことより、本研究では育児期の母親が抱える精神的健康の問題の指標の一つとして“育児ストレス”を取り上げ、育児ストレスが母子関係に与える影響について論じる。その中で、特に本研究では幼児を持つ母親に着目することとする。なぜなら、この時期の子どもは乳児にみられる夜鳴き、むずがり、離乳困難、食事や排泄などによる問題が少なくなり、それらに関する母親のストレスは軽減されるものの、歩行が可能になったことによる行動範囲の広がり、言語の増加、自己の顕在化により、行動の統制の難しさ、反抗的な言動への対処の問題、他の子どもとの身体的、精神的な発達の違いなどが母親にとって新たなストレスとなると考えられるからである。事実、2006年度、日本全国の児童相談所に寄せられた相談を内容別にみると、幼児期では乳児期のような相談内容は減少するものの友だちと遊べない、落ち着きがない、内気、緘黙など性格または行動上の問題に関する相談が増加している（厚生労働省大臣官房統計情報部、2008）。これらのことから、母親の育児ストレスの中でも、特に幼児期の子どもを持つ母親に着目する意義があると考えられる。

それでは、幼児に関する育児ストレス研究にはどのようなものがあるのだろうか。育児ストレス研究を概観すると、これまで母親の育児ストレス要因や緩衝要因の探索など（e.g., Mulsow, Calder, Pursley, & Peifman, 2002）、母親の精神的健康に着目した研究や、育児ストレスと子どもの問題行動（Fischer, 1990; Mash & Johnston, 1983; Suarez & Baker, 1997）との関連についての研究が多

くなされてきた。しかし、育児ストレスを持つ母親が、実際の母子相互交渉場面で子どもに対してどのような行動をとるのかについて着目した研究は筆者が知る限り少ない。また、母親の育児ストレスと母子相互交渉場面での行動の特徴が、その後の母子関係とどのように関係があるのかについて縦断でみたものも少ない。よって、これらについて明らかにすることにより、母親の育児ストレスが母親の養育態度やその後の母子関係に与える影響について明らかにすることができると考えられる。

以上のことから、本研究では縦断研究により次の2つを明らかにすることを目的とする。一つ目は、幼児を持つ母親の育児ストレスが実際の母子相互交渉場面での母親の養育行動とどのように関連するのかについて、二つ目は、目的1において育児ストレスが高かった母親の子どもが、その後、大切な存在として母親を選ぶかどうか、また、母親を選ぶ場合、その重要度とはどのように関連するのかについて明らかにすることを目的とする。

研究 1

目 的

研究1では、幼児を持つ母親の育児ストレスが実際の母子相互交渉場面での母親の養育行動とどのように関連するのかについて明らかにすることを目的とする。具体的には次のことを明らかにした。育児ストレスが高い母親は、育児ストレスが低い母親に比べて子どもの行動に対して不適切な対応をする傾向が強いであろう。ここでいう不適切な対応とは、母子相互交渉場面で子どもの立場を考えた援助や励ましを与えることが少ない、子どもの問いかけを無視する、子どもに否定的な発言をする、子どもの課題とは無関係な行動を制御しない、子どもの反応を待たない、子どもに統制的な対応をする、自分の考えに固執するというような母親の反応をさす。

方 法

調査協力者

東京都内の私立幼稚園に通う年中組の4, 5歳児(男児22名, 女児20名)とその母親(22~47歳, $M=35.21$, $SD=3.99$)の42組。このうち、専業主婦30名, パート・自営業の有職者13名, フルタイムで勤めに出ている母親はいなかった。調査は2004年6月から2004年8月までである。

調査内容

1. 母親の育児ストレスの測定 幼稚園の母親を対象に飯島(2004)によって作られた幼稚園児母親用育児ストレス尺度(MCSS, The Mother's Caregiving Stress Scale for Kindergarten Children)を用いた。この尺度は幼稚園児の母親を対象にした育児ストレス尺度であり、「母親としての無能力感」「夫婦関係の不協和」「母親の非社交性」「子どもの発達上の気がかり」「母親の身体的疲労感」「母子関係における愛着の不安定感」「母親への社会的・文化的圧力」「出産直後の不安定な気分」の8下

位尺度、計 53 項目で構成されている。回答方法は 5 段階（1：全くそう思わない～5：非常に思う）で回答するものである。

2. 母子相互交渉の観察 母子交渉の質的な差異を明らかにするために、母子が協力して課題を遂行する必要があるものの、母子の行動の自由度が大きい図形伝達課題と図形完成課題の 2 課題を用いることにした。課題試行中の母子相互交渉は調査協力者の許可を得た上で、すべてビデオで録画した。具体的な観察場面は次の通りである。まず、観察室の中央部分に縦 60 センチ、横 120 センチ、高さ 45 センチの机を用意した。そして、横の面のところに向きあう形で椅子を置き、母子に机をはさみ向き合う形で座ってもらった。ビデオは 80 センチの高さの三脚の上に乗せ、子どもの左側（母親の右側）方向、机から 1.5 メートルの位置に設置し観察を行った。

(1) 母子相互交渉の課題

課題 1：図形伝達課題 これは Dickson (1981) が考案した The Picture Communication Game を応用したものである。課題は 4 つの図形のうち、ターゲットはどれかを当てるというものである。すなわち、4 つの図形の中の 1 つの図形が母子があてるターゲット図形である。母親のみにどれがターゲット図形かを知らせて、子どもにターゲットはどの図形かを同じ 4 つの図形からなるセット（ただし配置が母親のものとは異なる）からあてさせるという課題である。母親には 4 つの図形が 1 枚のカードに描かれたカードを渡した。そして、4 図形のうちどれがターゲットの図形かをシールを貼って示した。子どもにはこの 4 つの図形が 1 つ 1 つ取り外せるようになっている埋め込み式のカードを与えた。問題は練習試行 2 問、本試行 7 問の計 9 問である（図 1）。

手続きは次の通りである。母親に母親用カードを渡し、シールがついた図形がどれかを子どもにわかるように自由に考え言葉で説明するように教示した。注意点として母親は子どもに図形を説明する際、自分のカードを子どもに見せないこと、また子どもに「一番目」などと図形の位置を言わないこと、問題は子どもが正解するまで行うことを説明した。一方、子どもには、母親からの図形の説明を聞き、その説明と合致すると思う図形を自分のセットからはずして母親に見せるよう教示した。問題は子どもが正解するまで行うことを説明した。具体的な教示は以下の通りである。「(子どもに) これからあてっこゲームをします。○○ちゃんの前に 4 枚の絵がありますね。お母さんも同じカードを持っています。お母さんがその中のどれかのカードについて説明します。○○ちゃんはお母さんの説明を聞いて、自分の 4 枚のカードの中からお母さんが説明するカードがどれかを当てて下さい。『お母さん、このカードのことを言ってるんだ。』と思ったら、カードを取ってお母さんに見せて下さい。カードを見せたあとは元の場所に戻して下さい。(母親に) ゲームはお子さんがカードを当てるまで何回でもやって頂いてけっこうですが、できるだけ 1 回の説明でお子さんが当たるように説明して下さい。説明するときは、『一番目』など順番を言わないで下さい。また、説明するときにご自分のカードをお子さんに見せないで下さい。」なお、図形伝達課題では制限時間は設けず、子どもが正答するまでその試行を行ってもらった。問題 1 から問題 7 までの観察時間は 8 分から 13 分であった。

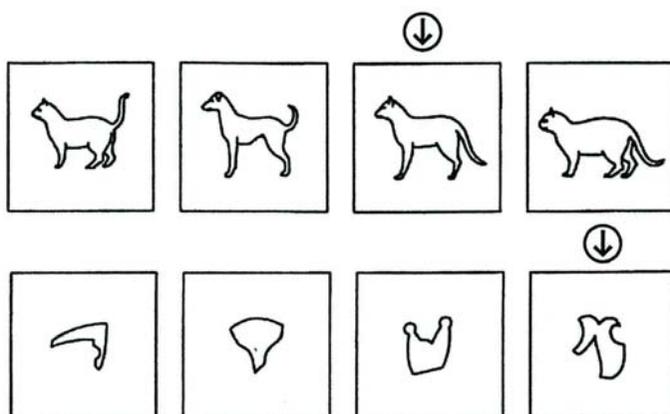


図1 図形伝達課題の例，母親カードより（上：課題1；下：課題7）

課題2：図形完成課題 図形完成課題は52個の小さな形のピースを使って見本と同じ形を組み立てるというものである（商品名：PIKY DECORS，メーカー：PIKY）。課題の図形は筆者が作成した。ピースの裏にはマグネットがついており，ピースをマグネット式のボードに置いていく。手続きは次の通りである。まず，図形完成課題の見本の図版を母子に提示した。そして，課題を5分以内で完成してもらうこと，5分になったら知らせるので課題が途中で完成するのをやめてもらうことを教示した。具体的な教示は以下の通りである。「これからパズルゲームをします。〇〇ちゃんはお母さんと一緒に，この見本と同じになるようにこのボードの上に図形を作ってください。時間は5分です。3分になったところで私が『あと2分です』と言います。5分になったら私が『5分になりました。』と言うので，そこでパズルを作るのを止めてください。（母親に）このパズルはこの年齢のお子さんには難しいのでお母さんとお子さんと一緒に作って下さい。」5分以内で図形を完成できずになお子どもが続行することを希望した場合には，最後までしてよいことにした。

(2) 分析の手続き

録画された発話，および行動はすべて文字化し，プロトコルを作成した。そして，表1に示す，「母親の子どもへの援助」「母親の子どもへの励まし・称賛」「母親の応答性の低さ」「子どもの逸脱行動の放任」「母親の統制」「母親の自分の主張への固執」の6つのコードによって，図形伝達課題と図形完成課題のプロトコルにおける母親の行動を課題別に分析し，母親の行動の特徴を明らかにすることにした。

図形伝達課題では，7問それぞれについてコーディングを行った。その際，上記の6つのコードに該当する行動が一度でも出現すれば1，その行動が出現しなければ0とした。たとえば，問題1で「母親の子どもへの援助」が見られれば1，見られなければ0とした。同様に他のコードについても問題ごとに分析を行い，問題1から問題7までの各コードの合計得点を算出した。すなわち，問題が7問あるためそれぞれのコードの得点は最大が7，最低が0となる。また，図形完成課題では，初めの5

分間について分析することにした。図形完成課題では、5 分間のうちにそのコードに該当する行動が出現すればその回数だけコードし、その行動が出現しなければ 0 とした。なお、母子相互交渉課題のコーディングの一致度について発達を専門とする大学院生 1 名と筆者との間でみたところ、図形伝達課題は 93.33% (Cohen's Kappa=.82)、図形完成課題は 91.67% (Cohen's Kappa=.83) であった。

表 1 コードの名称および定義と例

コードの名称	定義と例
母親の子どもへの援助	<p>子どもの課題遂行のしやすさを考えた、課題試行中における子どもへの母親の援助。</p> <p>(図形伝達課題) 「○○ちゃんが持っている○○に似てるよ」など、子どもの個人的な経験を引き合いに出して説明する。</p> <p>(図形完成課題) 子どもがピースを取りやすいように、母親が色別にピースをまとめて置く。</p>
母親の子どもへの励まし・称賛	<p>母親が子どもに、「がんばって」「よくできたね」など、励ましや称賛の言葉をかける。</p>
母親の応答性の低さ	<p>子どもの発言や行動に対し、否定的な発言をしたり、無視したりする。</p> <p>(図形伝達課題) 子どもが母親にカードを見せたとき、「どうしてそれになるの」などと、否定的な発言をする。子どもが母親にカードを見せたとき、それに対して正解とも不正解とも言わない、あるいは反応しない。</p> <p>(図形完成課題) 子どもがピースを置いても反応しない。</p>
子どもの逸脱行動の放任	<p>課題試行中、子どもがソワソワ・キョロキョロ・立ち上がるなど課題とは無関係な行動をしてもそれを静止せず、そのままにさせる。</p>
母親の統制	<p>母親が子どもに指示をする。</p> <p>(図形伝達課題) 子どもがカードに少し触れた段階で「そのカードを取って」と指示する。</p> <p>(図形完成課題) 「ここに置きなさい」と母親が子どもに指示をして、ピースを置かせる。</p>
母親の自分の主張への固執	<p>母親自身の説明の仕方や方略に固執する。</p> <p>(図形伝達課題) 1 回目の説明で子どもが間違ったにも関わらず、その後も 2 度以上、同一、あるいは違う言葉でも同類の説明を繰り返す。</p> <p>(図形完成課題) 「ここに赤、赤、赤」などと母親が置かせたい位置に固執して子どもにピースを置かせる。</p>

結果と考察

1. 育児ストレス高群, 低群の選出について

42名の母親の育児ストレス合計得点の分布を検討し、最頻値に属する調査協力者3名を除き、その得点よりも高い群を育児ストレス高群(98点以上, 21名), 低い群を育児ストレス低群(93点以下, 18名)とした。

2. 育児ストレスと母子相互交渉

次に、育児ストレスが高い母親と低い母親とで、母子相互交渉課題での子どもの反応への対応に差があるか否かを検討した。まず、育児ストレス高群と低群の母親が図形伝達課題での子どもの反応への対応について差があるかを t 検定でたしかめた(表2)。その結果、「母親の応答性の低さ」($t(37) = 4.49, p < .001$), 「子どもの逸脱行動の放任」($t(37) = 2.04, p < .05$), 「母親の統制」($t(37) = 3.08, p < .01$), 「母親の自分の主張への固執」($t(37) = 3.24, p < .01$)において有意な差がみられた。すなわち、図形伝達課題では育児ストレスが高い母親ほど子どもからの反応に対して応答しない、子どもの課題とは関係のない行動を制御しない、自分の思い通りにさせる、自分の主張に固執するという対応をすることがわかった。

次に、育児ストレス高群と低群の母親が図形完成課題での子どもの反応への対応に差があるかを t 検定でたしかめた(表2)。その結果、「母親の応答性の低さ」($t(37) = 2.67, p < .05$)において有意な差があり、「母親の子どもへの励まし・称賛」($t(37) = 1.70, p < .10$)において有意な傾向の差がみられた。すなわち、図形完成課題では育児ストレスが高い母親ほど子どもからの反応を無視するといった応答性の低さがみられた。一方、育児ストレスが低い母親ほど、図形完成課題の試行中に子どもを励ます、誉めるといった対応をする傾向があることがみられた。

表2 育児ストレス高低群別の母親の行動の得点 (SD)

群	母親の子どもへの援助	母親の子どもへの励まし・称賛	母親の応答性の低さ	子どもの逸脱行動の放任	母親の統制	母親の自分の主張への固執	
図形伝達課題	高群 ($N=21$)	.52 (1.25)	.33 (1.07)	2.24 (1.73) ∇	1.10 (1.36) ∇	2.19 (.48) ∇	.95 (1.26) ∇
	低群 ($N=18$)	.17 (.38)	.06 (.24)	.39 (.70)	.28 (1.30)	.26 (.07)	.06 (.32)
	t 値	1.24	1.16		2.04*	3.08**	3.24**
図形完成課題	高群 ($N=21$)	.67 (.48)	.19 (.40) ∧	.62 (.50) ∇	.10 (.30)	.90 (.30)	.10 (.30)
	低群 ($N=18$)	.72 (.46)	.44 (.51)	.22 (.43)	.00 (.00)	.78 (.43)	.06 (.24)
	t 値	.37	1.70†	2.67*	1.45	1.06	.45

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$

特に、両課題に共通してみられる行動に着目すると、子どもが母親にカードを見せたときにそれに対して正解とも不正解とも言わない、あるいは反応しない（図形伝達課題）、子どもがボードにピースを置いても反応しない（図形完成課題）というように、子どもの発言や行動に対し否定的な発言をしたり、無視したりするというような子どもへの応答性の低さがみられた。

研究 2

目 的

研究 1 では、育児ストレスが高い母親の母子相互交渉場面における行動の特徴が明らかになった。それでは、研究 1 での母親の育児ストレスがその後の母子関係とどのように関連しているのであろうか。そこで研究 2 では、研究 1 において育児ストレスが高かった母親の子どもが、その後、大切な存在として母親を選ぶのか、また、母親を選ぶ場合、その重要度とどのように関連するのかについて明らかにすることを目的とした。具体的には、次のことについて明らかにした。研究 1 において育児ストレスが高かった母親の子どもは、育児ストレスが低かった母親と同様に大切な存在として母親を選ぶものの、その重要度は育児ストレスが低かった母親の子どもよりも低いであろう。

方 法

調査協力者

研究 1 の調査協力者 42 組の母子のうち、引き続き調査への協力を承諾した母子 27 組を対象とした。具体的には、東京都内の小学校に通う 1 年生、6 歳から 7 歳の児童（男子児童 16 名、女子児童 11 名）とその母親（31～46 歳、 $M=36.48$, $SD=3.33$ ）である。このうち、専業主婦 15 名、パートあるいは自営業の仕事を持つ母親 11 名、フルタイムで働いている母親 1 名であった。調査時期は 2007 年 2 月から 2007 年 3 月までである。

調査内容

1. 子どもにとっての大切な存在 子どもにとっての母親の重要度を測定するため、Kahn & Antonucci (1980) による CONVOY を用いた。これは 3 重の円が描かれた紙に、自分にとって大切だと思う人たちを記入するものである。なお、1 番大切だと思う人たちは中心に近い円に、2 番目に大切だと思う人たちは次の円に、3 番目に大切だと思う人たちは最後の円の部分に記入するようになっている。具体的には、3 重の円が描かれた用紙を子どもに見せ、「○○ちゃんにとって大切な人たちのことを思い浮かべてください。その中で、まず 1 番大切だと思う人たちの名前を教えてください。」と教示した。子どもが 1 番大切な人たちとして名前を挙げるごとに筆者がその名前を円の中に記入した。2 番目、3 番目に大切な人たちについても同様の教示をし、子どもが挙げた名前を筆者が円の中に記入した。なお、大切な存在として母親を選ぶかどうかについての分析では、母親を挙げた場合は、1 点、母親

を挙げなかった場合は0点として得点化した。また、母親の重要度についての分析では、1番大切な存在として母親を挙げた場合は3点、2番目では2点、3番目では1点、母親を挙げなかった場合は0点として得点化した。

結果と考察

1. 母親の育児ストレスと子どもにとっての母親の重要度との関連

研究1で育児ストレスが高かった母親の子どもと低かった母親の子どもとで、その後、大切な存在としての母親の選択に差があるのであろうか。このことについて明らかにするために、研究1で育児ストレス高群に属していた母親と育児ストレス低群に属していた母親の子どもの、研究2での母親の選択の有無について t 検定を行った。その結果、有意な差はみられず、育児ストレスが高かった母親の子どもも低かった子どもの母親も、自分にとって大切な存在として母親を選択することに差がないことが分かった。

それでは、育児ストレスが高かった母親の子どもと低かった母親の子どもとで、大切な存在として母親の重要度に差はあるのであろうか。このことについて検討するために、研究1の育児ストレス高群に属していた母親と育児ストレス低群に属していた母親の子どもの、研究2での母親の重要度の差について検討を行った。その結果、有意な傾向の差がみられ ($t(25) = 1.76, p < .10$)、育児ストレスが高かった母親の子どもは低かった母親の子どもより、母親の重要度が低いことが示された。

総合考察

本研究では、母親の育児ストレスと母子関係について縦断研究により明らかにした。その結果、育児ストレスが高い母親は低い母親に比べ、母子相互交渉場面において子どもからの問いかけに応答しないなど応答性が低いことが明らかになった。このような行動がみられたのは、母親の育児ストレスによる精神的疲弊が関係していると考えられる。すなわち、育児ストレスを持つ母親の精神的健康が低いことが指摘されたことから（長谷川、2003）、育児にストレスを持つと母親が精神的に疲弊することにより子どもの反応に敏感に対応する余裕がないためそのような行動をとったと考えられる。

また、縦断的にみると、育児ストレスが高かった母親の子どもは、2年経った現在、大切な人として母親を選ぶものの、育児ストレスが低かった母親の子どもよりも、その重要度が低い傾向があることが注目された。すなわち、育児ストレスが高かった母親の子どもにとって母親は大切な存在であるものの、母親に対して心理的な距離があるということである。これは、育児ストレスが高い母親は、子どもに対し応答性が低いなどの行動をとるため、それが良好な母子関係の形成に影響を与え、結果として子どもが母親を大切な存在だと思うものの、その重要度が低くなっているのではないかと考えられる。このような結果は、母親の育児ストレスや母子相互交渉における母親の子どもに対する養育行動というのが、単に一時点にのみ重要なのではなく、その後の母子関係においても重要であるという示唆を与えるものと考えられる。

今後の課題

本研究では、母親の育児ストレスと母子関係について縦断研究により明らかにした。しかし、本研究では、子どもの気質など子どもの要因には着目していないという問題点がある。子どもが育てにくい、問題行動があると認知している母親ほど育児ストレスが高いことが指摘されていることから (Mash&Johnston, 1983 ; Suarez&Baker, 1997), 育児ストレスと母子関係を考える上では、母親のみに焦点をあてるのではなく子どもにも着目し分析する必要があるであろう。

文 献

- Crnic, K., & Acevedo, M. (1995). Everyday stresses and parenting. In M. H. Bornstein(Ed.), *Handbook of parenting*. Mahwah, NJ : Lawrence Erlbaum. Pp.227-297.
- Crnic, K. A., & Booth, C. L. (1991). Mothers' and fathers' perceptions of daily hassles of parenting across early childhood. *Journal of Marriage and the Family*, **53**, 1042-1050.
- Crnic, K.A., & Greenberg, M. T. (1990). Minor parenting stresses with young children. *Child Development*, **61**, 1628-1637.
- Degroat, J. S. (2003). Parental stress and emotion attributions as correlates of maternal positive affect and sensitivity during interaction with young children. Dissertation Abstracts International: Section B: The Sciences and Engineering, 64(5-B), 2383.
- Dickson, W. P. (Ed.) (1981). *Children's Oral Communication Skills*. New York : Academic Press.
- Fischer, M. (1990). Parenting stress and the child with attention deficit hyperactivity disorder. *Journal of Clinical Child Psychology*, **19**, 337-346.
- Forgays, D. K., & Forgays, D. G. (1993). Personal and environmental factors contributing to parenting stress among employed and nonemployed women *European Journal of Personality*, **7**, 107-118.
- 長谷川麻衣 (2005). 母親の育児ストレスと母子関係—4, 5 歳児とその母親の場合— 聖心女子大学文学研究科修士論文 (未公刊) .
- Howes, P., & Markman, H. J. (1989). Marital quality and child functioning : A longitudinal investigation. *Child Development*, **60**, 1044-1051.
- 飯島さやか (2004). 幼児の母親用育児ストレス尺度 (MCSS) の作成—妥当性・信頼性の検討— 聖心女子大学大学院文学研究科修士論文 (未公刊) .
- Kahn, R. L. & Antonucci, T. C. (1980). Convoys over the life course: Attachment, roles, and social support. In P. B. Baltes, & O. G. Brim (Eds.), *Life span development and behavior: Vol. 3* (pp. 253-286). New York: Academic Press.
- 厚生労働省大臣官房統計情報部. (2008). 平成 18 年度社会福祉行政業務報告. 東京 : 財団法人厚生統計協会.
- Mash, E., & Johnston, C. (1983). Parental perceptions of child behavior problems, parenting

- self-esteem, and mothers' reported stress in younger and older hyperactive and normal children. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, **51**, 86-99.
- Mulsow, M., Caldera, Y., Pursley, M., Reifman, A., & Huston, A. (2002). Multilevel factors influencing maternal stress during the first three years. *Journal of Marriage and Family*, **64**, 944-956.
- Pianta, R. C., & Egeland, B. (1990). Life stress and parenting outcomes in a disadvantaged sample: Results of the mother-child interaction project. *Journal of Clinical Child Psychology*, **19**, 329-336.
- Suarez, L. M., & Baker, B. L. (1997). Child externalizing behavior and parents' stress: The role of social support. *Family relations*, **46**, 373-381.

